
1. 環境問題の概要

- 環境問題の基本構図
 - 経済活動と環境問題
 - 環境問題の課題と要因
 - 環境問題…欲望への問いかけ
-

環境問題はなぜ問題なのか

- 環境問題
 - ゴミ、大気・水質汚染、自然環境の破壊、薬品汚染…
 - 何が問題なのか？
 - 自然がもたらす を失うこと
 -
 - 環境汚染 生物（動植物）の滅亡 人類の滅亡（自滅）
 - むしろ、絶滅前の
 - ➔ ただし「このまま人類が滅亡しても構わない」という人にとっては問題にならない
-

経済活動と環境問題

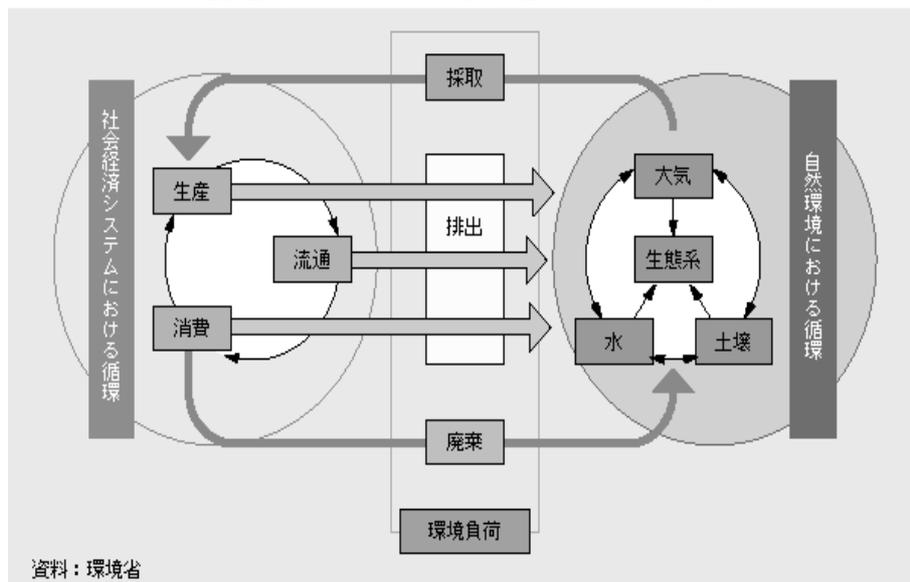
□ 環境問題はなぜ起きるのか？

- 主要因：
- 経済活動
-
-

□ 環境問題の基本構図

- **環境問題の軽減**
- **経済活動と環境問題を考えることは重要な問題**

社会経済システムにおける循環と自然環境における循環



市場経済の進展と拡大

- 市場経済（ ）
 - 各経済主体の自由意思による商品取引（生産・消費の決定）が保障されている社会（ 計画経済）
 - 商品取引（売買）が日常生活の基盤として極めて重要なウェイトを占めている社会
 - 日常生活に必要なあらゆるものが商品として売買されており、そうした商品の取引なくしては生活のできない社会
- 商品による
 - 日常生活におけるあらゆる を商品によって解決しようとする一方、生活の糧を によって獲得する社会

現代の市場特性

- - より多くの人々に均質な商品を大量供給できるシステム
 - 大量消費による大量廃棄
 - 大量販売
 - 市場競争の激化 の弊害、計画的陳腐化
- システムの発展
 - 消費者ニーズに対応するための企業活動
 - 商品の や計画的陳腐化がもたらす弊害
 - ex.) 外食産業・・・
-

環境問題の課題と要因

□ 環境問題の課題と要因

- という観点から
 - …経済成長、消費、人口抑制など
- 人間相互における …南北問題、世代問題など

□ 環境保護が目指すべき目的・目標への問い

- 環境のあるべき本来の姿、望ましい姿とはどのようなものか
- どのようにしてそれを知ることができるのか

環境問題の要因：欲望の次元

□ 困難の源は

- 自然・生活環境のあるべき姿とは何か？
- 「こうあって欲しい」という人々の願いが入り込む
- 環境問題…我々が自然環境をどうしたいか、自然環境にどうあって欲しいのかという「」

□ 環境問題 =

- 自問…自分の心は自分でもわからない
 - をも含む問題
- 自然の本来の姿をめぐる問い
 - _____ だからこそ解決困難

人間中心主義

- 人間中心主義
 - 人間は を通してあらゆる物を対象化しているかぎり、対象化するものに対して でしかありえない
 - 人間中心主義への批判
 - 自然は人間の言語活動を超えた体験（語り尽くせないもの）をもたらす存在
 - 自己抑制の課題…人間中心主義をめぐる錯綜した議論
 - 人間の自己抑制…人間自身のためでよいのか、自然環境それ自身のためであるべきなのか？
 - 人間中心主義への是非…双方が人類の存続を認め自然環境の恣意的扱いを否定している
 - 「 」とは誰も言わない
-

分配の公平をめぐる難題

- 分配と欲望
 - 分配されるものが の場合…分配手続きの整備による問題解決
 - 欲望の問題
 - モノの分配・享受 愛情や贅沢感、満足、おいしさといった、公平に分け与えられないものへの渴望が人を駆り立てる
 - ex.) ケーキの分配 （他人のものが大きく見える）
 - 物質的次元とは異なる次元での欲望の問題
 - 人々が競合するのは、物質的な資源の消費だけが問題なのではなく、 の問題がからむから
-

欲望の他者性

□ ラカンの欲望 (le desire)

- 欲望における主体… (自我・自己意識・理性・自己同一性の座) ではない
- 人間の思考… 自分自身を確立し、それを前提とする思考タイプばかりでなく、
- そうした無意識的思考は、私 (自我) にとっては他者 (他者性)
- 「これが私 (の考え) だ」と認められたものが私の考えになり、否定された考えは内なる他者の考えとして自我から追いやられる
- 欲望とは、私の考えではなく、
- 自我が機能する次元ではなく、様々な考えが浮かんで消える次元に展開される
- 欲望という他者の思考では、語る人は固定されず、いくつもの文脈が入り乱れる

欲望の法則性

□ 快感原則

- 欲望は無限に多様な (無秩序・無規定な) 展開を示すわけではなく、一定の方向性がある
- 人は語る存在であり、語ることでものが対象として与えられる
- 人は言語活動の次元 (象徴界) においてしかものと出会えない
- 快感原則: 象徴界でしか対象を与えられない人間が、にもかかわらず現実界との不可能な出会いを求め続けること
- 快感原則が追求する「快」とは自我にとって快いものである必要はない
- 快感原則は、現実界におけるものとの出会いを象徴界において創り出そうとする
- これが欲望を駆り立てる原動力

結論

□ 環境問題の本質的特性

- 環境問題… の問題
- 欲望…意識的・合理的思考が機能しなくなることがある
- のみですべてを解決できるわけではない

□ 快感原則と経済・社会・文化

- 人々の生活は なしには維持できない
 - 反面、快感原則に導かれるところに がある
-